

令和2年の火災・救急・救助概況について（速報）

令和2年中の津市内における火災・救急・救助概況の速報は、下記のとおりでした。
(令和2年中の数値は速報値となります。)

令和3年1月18日

津市消防本部

記

1 火災（担当：予防課違反指導担当／電話059-254-0356）

令和2年中に市内で発生した火災は103件で、そのうち住宅火災は27件でした。
また、火災による死者は5人で、住宅火災による死者は4人でした。

火災原因については、全体では「放火の疑い」、「たき火」、「火入れ」の順に多く、
住宅火災では、「放火の疑い」が最も多く、続いて「ストーブ、こんろ（同件数）」
でした。

これを踏まえ、放火対策やたき火からの延焼、ストーブの取扱い、こんろの消し
忘れなど、注意すれば防げる火災を起こさないように広報紙やイベント等、機会を
捉えて広報するとともに、住宅火災で亡くなる人の多くは高齢者であることから、
逃げ遅れによる死傷者を無くすために、住宅用火災警報器の設置及び維持管理につ
いて普及啓発に努めていきます。

(1) 火災概況

▲は減を示す

区 分		令和2年	令和元年	増減
火災件数合計（件）		103	115	▲12
火災 種別 (件)	建 物 火 災	43	54	▲11
	（内）住宅火災	27	27	0
	林 野 火 災	3	6	▲3
	車 両 火 災	12	10	2
	その他の火 災	45	45	0
死 者（人）		5	4	1
（内）住宅火災		4	3	1
負 傷 者（人）		5	10	▲5

2 救急（担当：消防救急課救急担当／電話059-254-1600）

令和2年中の市内における救急出動件数は14,242件で、前年と比較して1,657件の減少となりました。

種別でみると、例年同様急病が9,189件と最も多く、次いで一般負傷の2,461件、交通の933件の順となっています。

救急出動の減少は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う外出自粛の影響や、多くの市民が感染症予防策に取り組んだことにより、感染症にかかる人が減少したことが要因の1つとして考えられます。

消防本部としては、救急搬送体制の充実・強化に取り組むとともに、引き続き救急車の適正利用についても理解と協力を呼びかけます。

また、救急車を要請するか迷った場合の相談先として、三重県救急医療情報センターや津市救急・健康相談ダイヤルの活用について広報します。

(1) 救急概況

▲は減を示す

区 分	令和2年	令和元年	増減
出動件数（件）	14,242	15,899	▲1,657
搬送件数（件）	12,866	14,482	▲1,616
不搬送件数（件）	1,376	1,417	▲41
搬送人員（人）	12,953	14,607	▲1,654

(2) 救急種別件数

（単位：件） ▲は減を示す

種 別	令和2年	令和元年	増減
火 災	7	12	▲5
自然災害	0	3	▲3
水 難	9	14	▲5
交 通	933	1,160	▲227
労働災害	127	153	▲26
運動競技	26	77	▲51
一般負傷	2,461	2,590	▲129
加 害	47	52	▲5
自損行為	89	102	▲13
急 病	9,189	10,102	▲913
そ の 他	1,354	1,634	▲280
合 計	14,242	15,899	▲1,657

3 救助（担当：消防救急課消防救助担当／電話059-254-1601）

令和2年中の市内における救助出動件数は149件で、前年に比べ38件減少しました。

種別でみると、最も多かったのが交通事故の66件で全体の44パーセントを占め、過去数年、最も多くなっています。

また、建物等による事故は49件発生しています。前年に比べ4件減少しましたが、交通事故に次いで2番目に多い原因となっています。その原因の多くは、「高齢者が建物内に居るが外からの呼びかけに応答がない」というものでした。

(1) 救助概況

▲は減を示す

区 分	令和2年	令和元年	増減
出動件数（件）	149	187	▲38
活動件数（件）	85	112	▲27
救助人員（人）	86	116	▲30

(2) 救助種別件数

（単位：件） ▲は減を示す

種 別	令和2年	令和元年	増減
火 災	0	1	▲1
交通事故	66	82	▲16
水難事故	7	17	▲10
風水害等自然事故	0	0	0
機械による事故	1	3	▲2
建物等による事故	49	53	▲4
ガス及び酸欠事故	1	0	1
破裂事故	0	0	0
その他の事故	25	31	▲6
(内) 山岳	2	11	▲9
合 計	149	187	▲38